

自助具とは？

病気による後遺症があっても介護されるのではなく、**できるだけ自分で食べることで食事をより楽しめるよう**に使われているのが自助具です。箸やスプーンの他にもお皿などを工夫することで1人で食事を食べやすくすることができます。

当院で使用されている自助具の一部を紹介します。

当院にある自助具



こんなときに！

【介助箸】

- ・片麻痺による利き手交換のためや非利き手で箸を持つとき
- ・巧緻性低下から手指で箸を固定する力が弱い方



【曲がり柄スプーン】

- ・**肘や手関節の可動域制限**があり、普通のスプーンではすくいにくく、口に入れにくいとき
- ・上肢麻痺等の影響から**口元にリーチできないとき**
→**ヘッド部分に角度をつけることができる**ため、口に入れやすい。繰り返し調整も可能◎



【万能カフ】

- ・脊髄損傷や抹消神経障害により、**手指の可動域制限や握力低下を生じ、スプーンやフォークを握れない方に**



【ワンプレート皿】

- ・認知症の方など**三角食べができず、注意が逸れやすい方に**
- ・麻痺などの影響で**自身での皿の入れ替えが難しい方に**

食事が食べにくい方でも使う道具を変えるだけで、より食べやすく、楽しい食事の時間を過ごすことができます。お困りごとがあれば気軽にご相談ください。

掲示許可シール
貼付スペース